めでぃかすとる
Médicastre

「 寅年の年男・年女 」

鶴岡地区医師会　令和４年 １月号

年頭のごあいさつ

新　年　挨　拶

一般社団法人 鶴岡地区医師会
会長　福原　晶子

明けましておめでとうございます。会員の先生方、職員の皆様におかれましては、昨年とは異なり、ゆったり穏やかな気持ちで新年をお迎えになられたのではないかと拝察いたします。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

この１年間は、新型コロナウイルス感染症対策に追われた年でした。大規模なクラスターの発生も経験致しましたし、残念ながら死亡例もありました。心よりご冥福をお祈りいたします。しかしながら、関係諸機関との連携もあり、その被害は最小限に抑えることができたのではないかと思っています。発熱患者への対応やPCR検査、また、多くの市民に対してのワクチン接種等、会員の皆様や医師会職員には、多大なご協力を頂きましたことを感謝申し上げます。８月の感染者増加時には、鶴岡市立荘内病院と情報を共有しながら、在宅療養者の健康観察を会員が行うなど、南庄内独自のシステムを構築し、地域全体で協力しながらの対応が実現できたのは、取りも直さず、以前から作り上げてきた医療連携の賜物と思っております。今後の第６波、それ以降の対応につきましても、皆様の更なるご協力をお願い致します。

医師会事業を振り返ってみますと、一昨年はコロナ禍の中、業績の悪化もあり、単純に比較することはできませんが、昨年は多くの事業体において、ほぼ計画通りの結果を出すことができています。しかしながら、荘内病院からの転院患者がほとんどの湯田川温泉リハビリテーション病院においては、なかなか入院患者数が回復しない状況が続いており、今後の動静を見守っていく必要がありそうです。また、職員の退職が相次ぎ、その確保も難しい状況です。魅力ある職場として医師会を希望して頂くために、方策を検討していく所存です。

更に、会員の高齢化と会員数の減少により、以前より、学校医・園医、施設の嘱託医、産業医の確保が困難な状況となっております。他地域では、医師会が介入せずに、それぞれ個別に依頼している所も多いようですが、当地区では、ある時期から例外を除き、医師会が推薦しています。今後、増え続ける依頼にすべてお応えすることは難しいことから、推薦方法等についても理事会・各委員会で検討していく予定ですが、会員の皆様方には、今後もご協力のほどお願い致します。

加えて、医師会の運営方針も含め、役員の養成や幹部職員の育成など、すぐには形にでき難いながら、喫緊の課題として取り組まなければならない問題も抱えています。どうか、皆様には、他人事ではなくご自身の問題としてお考えいただき、ご意見やご助力を賜りたく、なにとぞよろしくお願い致します。

年頭のごあいさつ

新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対する当院の対応と病院の将来構想

鶴岡市立湯田川温泉リハビリテーション病院
院長　武田　憲夫

鶴岡地区医師会会員の皆様、医師会職員の皆様、令和４年、明けましておめでとうございます。本年も宜しくお願い申し上げます。旧年中は、当院運営に関して、色々とご指導、ご協力を賜り、厚く御礼を申し上げます。

新年に当たり、令和３年度のご報告と令和４年度に向けての当院の主な構想をお話しさせて頂きます。

１．新型コロナウイルス感染症（COVID-19）に対する当院の対応

2021年度の新型コロナウイルス感染症に対する当院の対応についてご報告します。2020年の春頃から始まった、国内における同感染症は、同年４月頃の第１波から始まり、最大の2021年８月の第５波まで、波状的に、かつ徐々に感染者数、重症例が増加してきました。８月は、それまでで最強のデルタ株が中心となり、感染数、死亡例とも最多でした。この時期の庄内地区の新規陽性患者数は１週間当たりで100人を超えており、病床利用率も日本海総合病院で70％近く、荘内病院では100％を超える状況になっていました（「新型コロナ第５波までの振り返り及び第６波に備えた医療体制」に係る意見交換会資料より2021年12月16日）。当院の入院患者の平均年齢は82歳とご高齢で、殆どの方が基礎疾患を持つため、病院内を新型コロナウイルスから守る体制確保に万全を期しました。その為には、面会制限や、在宅から当院に直接入院する患者への対応など、院外からのウイルスの持ち込みを防止するマニュアルを始めとした様々なマニュアルの整備、PCR検査体制の整備、さらには職員の教育、訓練の実施、など我々なりに考え得る様々なことを行っておりました。しかし、８月、当院職員１名が新型コロナウイルスに感染してしまいました。呼吸器症状が出現、当院で初診、軽症急性呼吸器感染症と診断。PCR検査は翌日まで出来ないため、当院の個室に隔離入院管理し、念のため病室内はPPE対応としました。翌朝荘内病院に搬送、荘内病院でPCR検査陽性と判明しました。庄内保健所蘆野所長と相談、直ちに当院のマニュアルに則り、濃厚接触者の同定と希望者の宿泊対応、感染リスクの高い領域（病棟）のゾーニングとその領域内での職員のPPE対応。さらに、全職員と全入院患者のPCR検査を数日おいて２回行いました。また、この日から入退院停止の処置を取りました。必要な緊急対応は、ほぼ１両日中に出来たと思います。幸い、その後患者、職員とも新たな陽性者発生はなく、念のため行った職員の３回目のPCR検査も全員陰性で、院内に感染は波及しなかったと判断し、約２週間で規制を解除しました。感染職員は荘内病院、日本海総合病院の献身的治療が奏功し、全快して12月に職場復帰しました。対応された両医療機関の職員の皆さまには、心から感謝申し上げます。当院の一連の対応に関

しては、庄内保健所蘆野所長、山形県立中央病院呼吸器感染対策部長阿部先生のご指導、アドバイスを頂きました。周囲の皆さまとの連携もあり、幸いなことに院内感染例は出ませんでしたが、これまでのマニュアルでは不充分なことが幾つか明らかになり、新たに追記訂正をしました。

本稿執筆時点（１月４日）では、日本でも感染率の高いオミクロン株のまん延化の兆しが徐々に見えてきています。欧米ではこの年末の１日当たり感染者数が、フランスで20万人、米国48万人と報告されています。庄内地区でも、庄内保健所の声かけで、第６波の可能性を想定した意見交換会が12月16日にオンラインで開催され、対策案が提案されました。オミクロン株の重症化率はデルタ株より少ないというデータが出されていますが、感染者が多ければ、重症化率は低くても必然的に重症者数は少なくないわけです。当地域の感染症病床数には限りがあり、それらが満床になれば、自宅療養、宿泊療養者が増え、電話診療の患者が増加し、それに対する医療対応が必要になります。基幹病院が満床に近くなると、その他の病院のベッドを軽—中症患者の入院病床として提供する可能性も考えられます。この様な状況も視野に入れ、この地域を守るため、地域の医療機関が連携し、協力して対応する必要があります。当院でも、職員一同団結して、その覚悟と準備を怠らない所存です。

２．本年度の当院の目標

（１）「地域包括ケア病床」の充実化

2020年４月から、当院第２病棟の一部を「地域包括ケア病床」に転換し、軽症急性期患者、重症対応でも60日以内に退院出来る患者、看取り患者、レスパイト入院などの形で、基幹病院からばかりではなく、在宅や施設からの入院患者を積極的にお引き受け出来る様になりました。当院の強みは、リハビリテーションもしっかり出来る事だと思います。この為か、ご紹介頂く患者数も増えてきて、当初の９床から現在は25床にまで増床しております。師長、病棟スタッフ、地域連携室などの努力で、在宅復帰率も70％を超すようになり、加算も少し上がって、病院経営にも寄与しています。

（２）電子カルテ導入に向けて

長年の懸案であった「電子カルテ」導入に向けての一歩である、老朽化した院内ランシステムが、2021年度の予算で光ファイバー化します。今後、老朽化した「医療用画像管理システム（PACS）」の導入を図り、その後、ようやく「電子カルテ」の導入が見えてきます。ご存知のように、今や日本の病院医療は、「患者情報」、「各種検査データ」、「薬剤データ」、「診療報酬関連データ」、「医療安全関連」等々、様々な病院データの仕組みと蓄積、その解析、オーダリングなどは“電子カルテ”を基本に成り立っています。この為、“非導入”による“非効率”が色々な分野で見られています。しかし、本システム導入には、医師会の皆さまのご理解、ご協力が必要です。何卒宜しくお願い致します。

第63回　鶴岡准看護学院戴帽式

日時：令和３年11月11日㈭　13：30～
場所：鶴岡地区医師会館　講堂

令和３年11月11日㈭　第63回鶴岡准看護学院戴帽式が挙行されました。半年間の予科期間を終え、20名の学生は晴れて戴帽式を迎えることができました。一人一人にナースキャップが授与され、看護の心を受け継ぎナイチンゲール誓詞を全員で斉唱しました。灯を胸にまっすぐ前を見つめ、心を一つにして誓ったナイチンゲール誓詞はとても感動的でした。

佐藤　梨音

戴帽式を終えて、今夢である看護師に一歩近づいた気がして嬉しく思った反面、責任の重さや今以上に勉強し経験を積み重ねていかなければならないことを実感し、身が引き締まる思いでいっぱいです。

戴帽式までの予科期間では、勉強の難しさや覚えることの多さに圧倒され楽しいことよりも辛いことの方が多く、これからやっていけるのか不安もありました。しかし、クラスの仲間や家族、職場の方々の支えのおかげでこうして戴帽式を迎えることができました。これからの学校での学習や実習により一層力を入れて取り組み、確かな知識や技術を身につけられるよう努力していきたいと思います。

丸山　緑

入学してから約半年が過ぎ、何十年ぶりのテストや学内実習などで緊張の日々の連続でした。その中でも看護の知識を学べることに嬉しさを感じつつ、関わってくださっている先生方はじめ全ての方々に感謝の気持ちを忘れず過ごしてきました。時には大変なこともありましたが、幅広い年齢のクラスメイトと共に励まし合って今日の日を無事に迎えることができました。自分が目指す看護師像に向けて、自らの健康管理もしっかり行い、患者さんや地域の方々の健康も守れる准看護師になれるよう頑張っていきたいと思います。

五十嵐　里夏

新型コロナウイルス感染症はだいぶ収まりつつありますが、このような状況下で戴帽式を行っていただいたことを嬉しく思うと共に、看護へのスタートラインに立ったことを実感しました。

入学してから毎週のテストや学内実習など、20名のクラスメイトと乗り越えてきました。振り返るとこの半年間はあっという間だったと思います。一人ではきっと乗り越えられなかったことも、仲間がいたからこそ頑張ることができ、お互い助け合うことの大切さも学ぶことができました。

これから始まる実習も想像している以上に大変だと思いますが、最後までやり遂げるという強い気持ちをもち、実習を受け入れてくださる病院の方々に感謝しながら頑張っていきたいと思います。

第41回　市町長・部課長、庄内保健所、荘内病院
こころの医療センター、医師会役員懇談会

日時：令和３年12月９日㈭ 19：00～
場所：東京第一ホテル鶴岡　鶴の間

12月９日、東京第一ホテル鶴岡において、第41回市町長・部課長、庄内保健所、荘内病院、こころの医療センター、医師会役員懇談会が開催されました。

鶴岡市長　皆川治氏よりご挨拶をいただき、鶴岡市新型コロナウイルスワクチン接種対策室長　伊原千佳子氏、庄内保健所長　藺野吉和先生、荘内病院 院長　鈴木聡先生、こころの医療センター 副院長　新田リエ先生、鶴岡地区医師会 感染症対策委員長　岡田恒人先生より話題提供をいただきました。

詳細は抄録をご覧ください。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

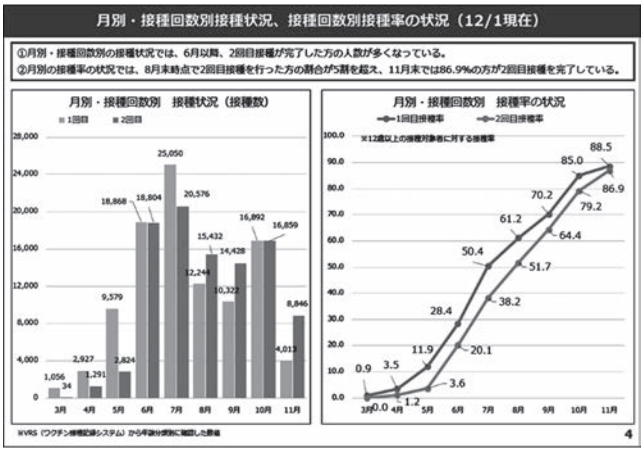
鶴岡市における新型コロナワクチン接種について

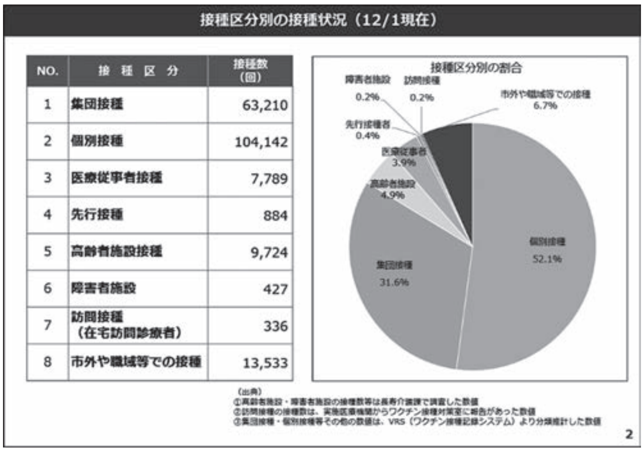
鶴岡市新型コロナウイルスワクチン接種対策室 室長　伊原　千佳子

⑴　１回目・２回目接種の実施状況

１回目２回目接種の実施状況として、接種対象者における接種率は12月１日現在で、１回目接種88.5％、２回目接種86.9％です。月別・接種回数別の接種状況では、６月以降２回目接種を完了した方の人数が増加し、８月末時点で２回目接種率が５割を超えました。

接種区分別の接種状況では、個別接種が52.1％、集団接種は31.6％を占めています。先行して届いたワクチンで病院や高齢者施設で実施した先行接種や、高齢者施設・障がい者施設での接種、在宅訪問診療を受けている方への訪問接種等、きめ細かな接種にご対応をいただきました。





NO.	接種区分	接種数（回）
1	集団接種	63,210
2	個別接種	104,142
3	医療従事者接種	7,789
4	先行接種	884
5	高齢者施設接種	9,724
6	障害者施設	427
7	訪問接種（在宅訪問診療者）	336
8	市外や職域等での接種	13,533

⑵　追加接種実施計画

実施計画の概要ですが、追加接種としては、２回目接種を完了した18歳以上の者に、２回目接種

完了から原則８か月以上の間隔をおいて１回の接種を行うものです。予防接種法に基づく接種としては、６か月以上の間隔が必要となります。期間は令和３年12月１日から令和４年９月30日までとされました。

ワクチンは、１回目、２回目に用いたワクチンの種類にかかわらず、メッセンジャーRNAワクチンを用いることとされています。

接種券は、12月接種の方には、11月26日に発送済で、１月接種の方には12月下旬に送付予定です。２月以降は対象者が多いため、８か月に到達する少し前に届く様に順次分割して送付予定です。

接種体制としては、医療従事者が12月から、住民接種は、先行接種の方は１月から、そのほかの方は２月から個別接種を中心に実施し、接種対象者が多い時期には、集団接種を行い個別接種を補完します。また、高齢者施設・障がい者施設でも、前回同様に接種を実施します。

使用予定のワクチンは、12月・１月接種分はファイザー社ワクチンであり、２月・３月分は、ファイザー社とモデルナ社の配分量がほぼ半数ずつとなっています。

武田・モデルナ社ワクチンについては、ファイザー社ワクチンのように冷蔵での小分け配送が可能となり、希釈不要で、接種量は１回目２回目の半量の0.25mlとされ、１バイアルあたり15回採取となります。また、１接種会場で複数種類のワクチンの取り扱いが可能となるため、個別接種においても、２種類のワクチン使用を前提とした計画としています。迅速かつ円滑な接種を行うため、市民にはワクチンの種類にこだわらずに接種いただくよう周知を図っていきます。

また、５歳から11歳への１回目・２回目接種について、ファイザー社ワクチンの薬事申請が出されておりますが、１バイアルから10回採取で、希釈量や接種量等12歳以上用のワクチンとは異なるものです。現時点では、早ければ２月頃から接種可能との見通しで準備するようにとのことから、集団接種・個別接種を並行して実施する想定で準備を進めていきます。

今後、複数種類のワクチン配分や前倒し検討など様々な変動要素がございますが、皆様からのご指導とご協力のもと、円滑にワクチン接種を進めてまいりたいと存じますので、どうぞよろしくお願い致します。

※国の方針（12月17日付事務連絡）により、接種間隔は医療従事者や高齢者施設等の入所者等は６ヵ月以上、一般の高齢者は２月以降７か月以上に前倒しとなった。
また、12月24日自治体説明会において５歳から11歳への接種は、早ければ３月頃から接種可能に変更と示された。

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

COVID-19　第５波までの振り返り

庄内保健所 所長　蘆野　吉和

はじめに

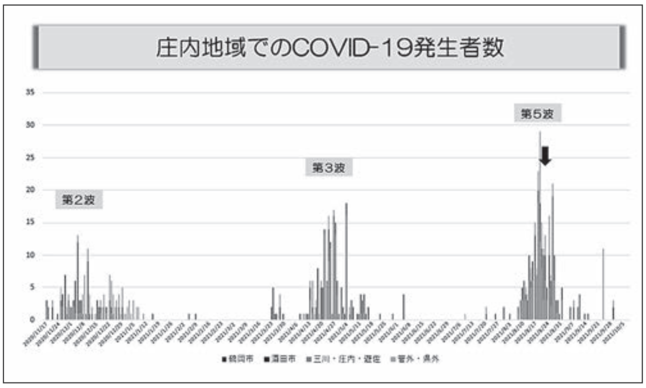
2020年４月からの2021年11月までの庄内地域で発生した新型コロナウイルス感染症（COVID-19）への対応を振り返り、今後起こるかもしれない第６波への対応体制について解説する。

庄内地域での新型コロナウイルス感染症への対応（基本方針）

これまでの私の経験を基にしたやや個人的な思いでもあるが、2020年４月に私

が保健所に勤務した時点からの新型コロナウイルス感染症への基本的対応方針を示す。①感染症を起因とした広域災害との認識：この認識における保健所の役割は感染症対応としての感染症拡大防止と災害対応つまり健康危機管理を行うことであり、感染拡大防止は積極的疫学調査と隔離であり、健康危機管理は地域で関係する機関・団体の連携体制の構築とその調整作業である。②COVID-19対応では地域包括ケアシステム体制が必要であり、その構築をはかる好機である。

第２波から第５波までの振り返り



私がCOVID-19対策に関わった2020年７月以降、庄内では同年11月からの第２波、2021年４月からの第３波、７月からの第５波があり、それらの対応を振り返る。

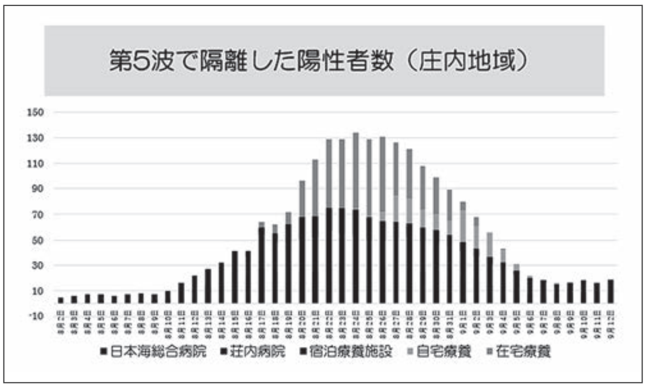
１）第２波：第２波は、11月14日から酒田市で多発的な発生源として始まり、それが、感知できず庄内地域で静かに拡散し、最終的にはウイルスが山容病院と三川病院に入り込んだ。この第２波対応での気づきは、①早期の見つけ出しの必要性と重要性（軽症でもPCR検査を受ける、PCR検査を行う）、②慢性期病院・高齢者施設での発熱者に対する抗原定性検査の有用性、③クラスター発生初期からの地域連携体制の構築の必要性と有用性などである。

２）第３波：第３波は2021年４月のこども園と酒田市のある地域でのまん延そして鶴岡東高校のクラスターが主体となった。変異株による感染である。この対応での気づきは、①大規模および迅速な検査体制の整備の重要性、②保育教育施設での感染症対策の強化の必要性、③学校医の活用、部活での感染対策の重要性、④地域連携体制での取り組みの有用性、⑤自宅療養者に対する医療支援体制の整備の必要性などである。

３）第５波：この第５波は７月下旬から始まり、これまでで最高の陽性者が発生した。これら陽性者への対応での気づきは、①荘内病院および日本海総合病院で隔離先として入院、宿泊療養、自宅療養の入院トリアージ・外来トリアージの有用性および有効性、②自宅療養者への電話診察（オンライン診察）の導入の有用性、③荘内病院等での中和抗体療法の積極的導入の有効性、④地域全体での取り組みの有用性と重要性などである。

おわりに

第６波は来ないと思っていたが、オミクロン株の世界的流行が始まっている現状では、３回目のワクチン接種が間に合わないとすれば、それを見越した対応が必要であり、対応に重要なキーワードが地域包括ケアシステムと情報共有である。

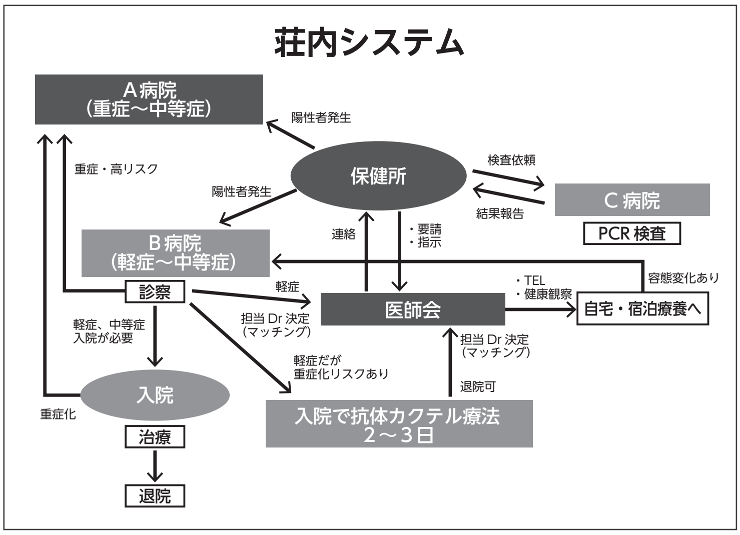


＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

「新型コロナに立ち向かう『荘内システム』の開発〜荘内病院の取り組み〜」

鶴岡市立荘内病院 院長　鈴木　聡

当院は山形県の新型コロナ感染症対応重点医療機関に指定されており、庄内地域の感染症患者の入院ならびに発熱外来やトリアージ外来など、多方面の感染症診療にあたっています。第５波の、令和３年７月上旬から10月上旬までの約３カ月間、110名以上の感染症患者が当院へ入院しました。８月中旬には、病床稼働率が100％以上の日が８日間あり、病床がひっ迫した状況でした。このような病院の危機的状況を打破するために、当院では新たな体制を構築しました。それが「荘内システム」です（図）。当システム開発の経緯を紹介します。第５波では、デルタ株の感染が比較的若い年齢層に急増しました。発症早期に肺炎等、中等症以上の変化が起こってくるため、宿泊療養施設等への転所が時に困難な状況がみうけられました。入院の継続が必要で、病床数の更なる確保が必要になりました。そして、庄内保健所や当院の業務量が増加してきたのに伴い、保健所や地区医師会等との的確な情報が共有できず、錯綜した情報網のただなかで地域医療に混乱が生じるようになり、当システムの開発が急がれました。また、そのような時、抗体カクテル（ロナプリーブ）療法を早期に行うことで、患者の重症化を防げることが明らかになりました。短期間の入院後、スムースに診療所につなげれば、入院患者を減らすことができるのではないかとの発想が生まれ、県内で先駆けてこの治療を開始したのです。つまり「荘内システム」とは、中核病院、保健所、地区医師会等の役割を明確にし、適宜、業務内容の検証を行って効率化をはかりながら、最適な医療の提供を図る取り組みと言えます。第６波に向けては、南庄内の優れた地域医療連携体制を継続しながら、一丸となっての取り組みが必要です。困った時は立場を越えて、普段から、遠慮なく相談し合える関係を作っておくことが大切であることを強調します。



図：荘内システム

＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊　＊

こころの医療センター 副院長　新田リエ先生、鶴岡地区医師会 感染症対策委員長　岡田恒人先生の抄録は令和４年３月号に掲載いたします。

表紙写真にご協力いただいた先生の紹介（敬称略）

三原　一郎	志田　秀隆	斎藤　憲康
石橋　学	菊地　直人	諸橋　政人

ご協力ありがとう
ございました。

新年の抱負（年男・年女）

三原　一郎（三原皮膚科）
　昨年は死んでもおかしくない程の大事故に遭遇しましたが、九死に一生を得ることができました。まだあの世へは逝くなということでしょうか。現世でもう暫く地域に役立つ仕事を続けたいと思います。

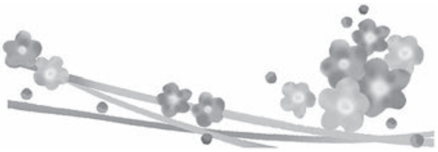
斎藤　憲康（すこやかレディースクリニック）
「エーもう72歳」これが偽らざる気持ちです。
　イベントのない日々は過ぎるのも早いこと、早いこと。
「五黄の虎は強運」といわれ続けて来ましたが、今まで実感なく、次の「五黄の虎」までは体が持たないので、久しぶりに宝くじでも買おうか。

菊地　直人（菊地内科クリニック）
「人生　塞翁が馬」
　60才をすぎてから人間ドックでDMが悪化し、そろそろ治療しなければと思っていた矢先、心筋梗塞になってしまいました。
　日曜日の朝、下顎に鈍痛がつづきその後失神。はっと気づいたら床に倒れていました。
　男やもめの一人ぐらしだったので覚醒しなければアウトのところでした。荘内病院ですぐにCAGカテーテル治療で100％閉塞部を直していただき助けられました。
　その後、今年再婚し伴侶を得て生活も健康的になりました。人生いろいろありますね。

志田　秀隆（志田整形外科医院）
　父の思いのほかの早逝に導かれたように、道半ばにして鶴岡に戻り、どこにいても自分のやりたい医療はできると実感し、良き師や先輩に恵まれ早40年余り、生涯現役を目指し、地域医療に努めたいと思います。

石橋　学（石橋内科胃腸科医院）
　11/7初めて管理センターで健康診断を受け、案の定いろいろなチェックを頂戴しました。折角なので今後の人生設計にこれを役立てたいと思います。今年も宜しくお願い致します。

諸橋　政人（いずみまちクリニック）
「メスを置くのは勿体ない」との有り難い御言葉を多くの先輩、後輩から頂戴した小生は、調子に乗って父に習い「手術もする開業医」としてやってきました。還暦も近いので、手を広げず得意な領域の手術だけするよう心掛ける様にしています。
　裏方に徹し、ずっと助けてくれている家内に感謝しながら。



特別寄稿

老い勾配に身をまかせ

黒羽根　洋司

　それぞれの学区や地域には、昔から「敬老会」なるものがある。知人の京都真如堂の貫主（かんす）にして洋画家のＳ師は、90歳も過ぎてなお、この会も同窓会も嫌いで一度も出席したことがないと言っていた。その理由が、「老人と一緒にいてもちっとも面白くない」というのだからフルっている。

　かつて長寿男性一位だった泉重千代さんは、「どんな女性が理想ですか」との問いに「年上の女性」と答えたという。双子の百寿者で有名になったキンさん、ギンさんは、「稼いだお金は老後の貯えにします」と平然と答えていた。どうやら、この人たちの意識からは、「年寄り」という言葉が消えているらしい。

　私もゆうに会員となる資格にとどいているのだが、一度も参加したことがない。

　そもそも敬老会の始まりは、わが国平安朝文学に影響を与えた唐の詩人、白楽天の提唱という。貞観年間（東日本大震災と同じ規模の地震と津波があった約一千年前）に貴族の間で行われていた。ただ当時は、敬老会といわずに、尚（しょう）歯（し）会と称した。尚（なお）歯があるぞ、という意味でなく、歯は年齢のこと、年をとった人を尚（たっと）ぶ、敬うことに由来している。

　明らさまに老人を敬うというより、尚歯という方が、断然おもむきがある。尚歯会に入会しませんかと誘われたら、私も二つ返事で入りたくなる。

　私にそう思わせる、もう一つの大きな理由がある。江戸末期、天保年間に開明的な学者や官吏、諸藩士が集まって新知識などを発表し、交換する会が結成された。その名が尚歯会であった。庄内が生んだ蘭学者小関三英は、渡辺崋山、高野長英らとともに、この会の有力なメンバーであった。やがて小関は幕府の取り締まり「蛮社の獄」に遭い、自分の頸動脈を針で切って自刃する。

　この人物を敬愛してきた私は、この尚歯会という名に昔から親近感を持ち続けていた。

　ことほど左様に、ものは云いようである。後期高齢者と呼ばれて、嬉しくなる人はそういまい。あまりにも人間を蔑視した名称である。

　江戸時代は、老いた者を「年勾配」といった。勾配は傾斜していること、「勾配がぬるい」という言葉もあった。これは物事の判断がにぶくなること、とっさの機転がきかない、つまり、年勾配になったのである。後期高齢者より、はるかに気がきいている。

　昔の人の方が、よっぽどセンスがあったし、洒落っ気もある。

　ある人はお年を召した母親が、足が弱ることを「老い足」と言っていたと記憶している。「すっかり、老い足になってしまった。言うことをきかないよ。年には勝てん」。そんなふうにこぼしたという。

　この「老い足」といい、「年勾配」といい、なかなか風情のある表現である。こんな言葉を使えば、老いも自然（じねん）、当たり前のようなものとして受け入れられる気がする。

　老い足で老い勾配をゆっくり歩きながら、季節を愛で、贅沢はせずとも身の周りのものを工夫して楽しんだらいい。老いを嘆かず、他人と気楽に付き合い、洒落や冗談を絶やさず日々を送れたら、これ以上の生活はあるまい。

　こうして、私の「敬老会」入会はしばらくおあずけとなる。

山形県学校保健連合会学校保健功労者表彰

この度 栄えある表彰を受けられました。
誠におめでとうございます。

長年にわたり地域の学校保健業務にご尽力された功績が認められ、
山形県学校保健連合会より表彰されました。
（令和3年12月1日表彰）

土田内科医院
土田 兼史 先生

丸岡真柄医院
真柄 博志 先生

おかべ内科胃腸科医院
岡部　進 先生

故　佐藤　剛 先生のご冥福をお祈り申し上げます。

令和３年11月19日ご逝去　満76歳

故　今野　陽介 先生のご冥福をお祈り申し上げます。

令和３年11月23日ご逝去　満45歳

編　集　後　記

会員の皆様、新年あけましておめでとうございます。

右往左往しながらの2021年が終わりました。新年が良い年となることを願っています。

第63回鶴岡准看護学院戴帽式が行われました。コロナ禍の中で看護の道を選んだ方々の真摯で率直な思いが伝わってきます。学院最後の学年・生徒となります。気概をもって進んでいただきたいと思います。

新年の抱負にご協力いただいた先生方、特別寄稿いただいた黒羽根先生にお礼申し上げます。また、山形県学校保健連合会学校保健功労者表彰を受けられました土田先生、真柄先生、岡部先生、おめでとうございます。経験と能力・行動力をお持ちの先生方には、今後ともご助言・ご助力をいただかなければなりません。よろしくお願いいたします。

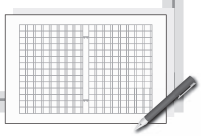
第41回市町長・部課長、庄内保健所、荘内病院、こころの医療センター、医師会役員懇談会は「新型コロナウイルス感染症」のテーマで話題提供をいただきました。庄内保健所と各医療機関でのコロナ罹患者の検査・診療、地域の感染対策、約20万回の臨時ワクチン接種が行われました。１年を振り返り、よくできたものだと驚いています。一方、自粛生活にともない医療分野ではメンタルヘルスや一般診療・健診受診者の減少など、問題も指摘されています。

2022年もオミクロン株の流行予想、コロナワクチン追加接種予定など、すでに課題となっています。更なる想定外にも備え、会員の先生方には、ご自愛とともに引き続きのご協力をお願いいたします。

（小野　俊孝）

原稿募集中！

趣味・話題・旅行記・思い入れが
あるもの・大切な思い出の出来事等
なんでも構いません。
総務課までご一報を！



編集委員：渡邊秀平・小野俊孝・吉田 宏・木根渕智子・菅原真樹・中目哲平
発 行 所：一般社団法人鶴岡地区医師会　山形県鶴岡市馬場町１－34
TEL 0235－22－0136　FAX 0235－25－0772　E-mail ishikai@tsuruoka-med.jp
ホームページにも掲載しております　鶴岡地区医師会 検索　URL http://www.tsuruoka-med.jp